

甲斐市議会厚生環境常任委員会会議録

1. 開催日時 平成27年10月7日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（7名）

| | | | |
|-----|-------|------|-------|
| 委員長 | 小澤重則君 | 副委員長 | 金丸寛君 |
| | 金丸幸司君 | | 五味武彦君 |
| | 松井豊君 | | 斉藤芳夫君 |
| | 内藤久歳君 | | |

欠席委員（なし）

傍聴議員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

書記 石原大助

審査内容

1 平成28年度当初予算への要望について

開会 午前 9時58分

○書記（石原大助君） 改めまして、おはようございます。

ご参集、大変お疲れさまです。

ただいまから厚生環境常任委員会を開会いたします。

本日の委員会は、初めに委員長よりご挨拶をいただき、委員長の進行により進めてまいりますので、お願いいたします。

それでは、小澤委員長、お願いいたします。

○委員長（小澤重則君） 改めまして、おはようございます。ご苦労さまです。

きのうは、竜王地区の市民と議会の対話集会もありまして、また、きょういろいろあるわけでございまして、また、ちまたでは蕪崎出身の大村先生がノーベル賞受賞、また梶田先生もノーベル賞受賞、またラグビーも勝ったりとおめでたい話が続いておりますが、また本日も慎重審議をお願いして挨拶とかえます。よろしく申し上げます。

ただいまの出席委員は7名です。定足数に達しておりますので、これより厚生環境常任委員会を開会します。

○委員長（小澤重則君） 本日の委員会は、平成28年度当初予算への要望について本委員会で取りまとめ、決算審査特別委員会に提出するための協議を行います。

それでは、これより内容に入ります。

平成28年度当初予算への要望について、さきの決算審査委特別委員会において、各常任委員会で取りまとめ、提出することになっております。

各委員より要望書を提出していただいておりますので、要望書の趣旨を順次説明していただき、内容を協議の上、昨年度と同様に全会一致の事案について、決算審査特別委員会に提言していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） では、そのようにいたします。

初めに、松井委員の介護保険の負担軽減とサービス水準の維持について、説明を受けたい

と思います。

松井委員。

○委員（松井 豊君） まさに書いてあるとおりなのですが、介護保険計画が改定のたびに負担増、サービス見直しが続いていまして、当初から見ると大分厳しい状態になってきているということです。業者の中にも店じまいのところも出てきているような状況もあります。安心の老後ということで、これ以上の改悪はさせてはならぬ、保険料の軽減についてもやっぱり水準の維持のために努力させてもらおうと。この3つをどう扱うかについて、一応、問題点が3つあるということで書いてみました。

本来は老人福祉が目的の消費税も活用した国の負担増を求める。これは一番大きい要素です。個々もいろんな自治体からの声で若干でも改善はされてきていますので、介護保険もやっぱりそういうことでないと見直しされないかなと。

それから、一般財源からも一定の繰り入れをして、自治体の独自性を発揮してもらおう。

それから、認定抑制がないよう、また、要支援のサービス低下のないようお願いしたい。

認定抑制はよその自治体でもちょっと問題になっているところもありまして、そういった意味での理想的な公平性というような内容です。

以上です。

○委員長（小澤重則君） ありがとうございます。

説明が終わりました。この介護保険の負担軽減とサービス水準の維持について、質疑がありましたらお願いします。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） 今回、要望にもあったんですけども、サービス水準の維持というのは当然だと思うんですけども、負担を軽減するというのは今後やっぱり高齢化社会の進展に伴って、要するに高齢者がふえていく中で介護サービスもやはり年々増加していくということで、やっぱり支援の体制運営を今後維持していくのも大変だということもありますし、国も今後、消費税を社会保障に充てるという観点から、やはり負担軽減というのはちょっと現実的ではないんじゃないかなという考えがありますので、ちょっとその辺の意見を述べて、ちょっと厳しいんじゃないかというふうに思います。

以上です。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） これ、何点かあるんですけども、サービス水準の維持ということから、これは低下しないという意味だと思うんだよね。多分。改めて、一般財源からの投入とかそういうものは難しいんだけど、要望としては、現状維持ということも要望の中で訴えてもいいかなという部分はある。私は、その維持ということに関して求めていくということもいいかなというふうに思います。

○委員長（小澤重則君） わかりました。

ほかにございますか。

五味委員。

○委員（五味武彦君） 私も（１）、（２）が国の負担増となると、ちょっとここの切りかえのほうの中でどうなのかというのもあるし、一般財源からの繰り入れとなれば、じゃ、その一般財源をどこへどうやってやるのかとか具体策がないということなので、（３）の部分は賛成できるということですね。同じような意見になると思います。

○委員長（小澤重則君） あらかじめ申し上げますが、当厚生環境常任委員会からは平年の負担金ほどにしてくれということで提言を受けております。その中で、全部協議した中で拾うかどうかはまた後での協議でよろしいでしょうか。

〔発言する者あり〕

○委員長（小澤重則君） 石原書記。

○書記（石原大助君） 昨年出ているのが、重度心身の窓口無料化についてということで要望した件と、あともう一件、甲斐市版町内福祉祭りの開催についてということで２件出ていたけれども、本委員会で検討した結果、１件要望を出した状況でございます。

ほかの委員会については、出されたものは全部通ったものもありますけれども、この件については先ほど委員長たちの会議がございまして、その中で２事業程度ということで決まったようでございます。お願いいたします。

○委員長（小澤重則君） なおかつ、去年の委員会のものも残さなければならぬじゃないか、提言していないものは、残して提言していかなければならないのではないかという話も出たんですが、今年度の要望の中で委員会として２つ持ってくるという考えでございますので、そうすると、去年の提言は考えないでくれ、２つずつしか出せないから、今年度の提言の中から２つ出してくれという話が出ましたので、それで決めさせてもらってよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 齊藤委員。

○委員（齊藤芳夫君） 考えないということは、去年のやつはみんな没という考え方ということですか。

○委員長（小澤重則君） 没じゃなくて、ことしはちょっとそれもえらいということで、今まで上がった提言が実現されていないものは、また検討して来年度に提言として上げるということも考えているという中で協議したいと。

齊藤芳夫委員。

○委員（齊藤芳夫君） 例えば、うちの厚生の場合にはある程度そういうことが、これは厚生委員会の話の中の話で、よその委員会のことをあれこれ言うのはいかんかとは思いますが、あんなにいっぱい出ていたものをみんな来年、再来年に先送りする、今回は検討しないという話でそれはまとまったという話ですか。

○委員長（小澤重則君） そうです。

○委員（内藤久歳君） 提言の意味がないですよ。

○委員長（小澤重則君） ただ、うちの委員会は2つの提言を上げている。ほかの委員会の委員長たちもそれでオーケーを出したということで、そういう意味で私もくい下がるというか、うちはうちらでやったものを1つは提言して。ただ、今回も提言が幾つもとくさん上がってきていますから、それも含めて2つに絞るのも大変じゃないかと。これは、前回提言したものを忘れるということじゃなく、また、次に検討にしてくれという話です。

どうでしょうか。

○委員（内藤久歳君） 継続性の審議というのは2つの見方があるんだよね。継続になっちゃくと、結局5年も10年もたっても、要するに提言としてやったことが実現することがしないことなんだね。だから、それは100%当局に関して言うことだから、100%はしないけれども、その件に関して多少要望に対して前進したとか。やっぱり、その提言に対して検証をして、それを次年度にまたもう一回やるのかというそういうことをやっていかないと、尻切れトンボじゃないけれども、今、去年のはもうこうだと、また新たに言ってその繰り返しだと、多分求めているものがちょっと薄まるような気がするんだよね。

だから、今そういった意見が出たので、とりあえず今回は委員長会議の中でそういうふうにしたからそれはそれでいいんだけど、今後の要望の出し方について継続性と審議という2本柱でいかないと、やっぱりこれは。そんなことを次からは反映してもらえればいかなと。今回はそういうことで進めていただいて。そう思います。

○委員長（小澤重則君） わかりました。

今、言われた意見を伝えて、継続性と審議の問題、また練り上げていくということで、そういう意見が出たということで伝えて、協議するようにいたしますのでよろしくお願ひします。今回は、そういうことでやらせていただいてよろしいでしょうか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 基本的にはお任せしますが、例えば、去年確かエアコンを入れましたよね。きのうの懇談会でも、2人ともまたエアコンの話が出たと。さらに月曜日も何かとりあえず気にしないからと言って、こともしもそれを落っことしてしまうとちょっとどうかなのというところもあって、内藤さんの言うとおりのなんだけれども。

○委員長（小澤重則君） 齊藤委員。

○委員（齊藤芳夫君） それは、出した委員会の所管の問題で、前回出した今回27年度予算にはそれが反映されなかった。だけれども、もう一度出してでもそれを審議してもらおうという考えをその委員会が持てば、これは前回流れたのが来年になるという話に先送らんという話とは別の問題だから。それは、それぞれの委員会の提出者、あるいは取り上げた委員会全体の問題だと俺は思う。これは二度出そうが三度出そうが、これはかまったものじゃないんだから。

○委員長（小澤重則君） 今回も総務委員会にエアコンの設置という意見が出されている。だから、今度から新規の事業も含めた中で、前回出したものももう1回取り上げてもらいたいというものがあれば、そこで一旦済むかと。ただ、今、委員1人1つという提言がありますから、来年度どういうことで提言していくかという組み立てを協議するようにまた話してください。よろしいですか。

〔「結構です」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） それで、一応3つ上がっていますね。決をとって、その中で絞っていきたいと思います。

〔「この裏のほうの資料」と呼ぶ者あり〕

○書記（石原大助君） こちらの参考資料は私が参考につくったものなので、特に出された議員さんにも確認をせず、金額とかそういう資料の比較のためにつくったものなので、参考にさせていただければと思います。

○委員長（小澤重則君） それでは、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） それでは、介護保険の負担軽減とサービス水準の維持についてお諮

りいたします。

これについては3番だけということですが、3番のサービス低下がないように努力するというので、松井委員よろしいでしょうか。

○委員（松井 豊君） 結構です。要は1つだけ……

○委員長（小澤重則君） 石原書記。

○書記（石原大助君） 先に3つやってから事業を絞ったほうがいい。先に決めちゃうとまた後で。

○委員長（小澤重則君） いや、この中で。サービス低下がないような努力をするということだけにすると。今の意見は、上の1番、2番は賛成できないと。そういうことであれば、賛成か反対かというのを諮りたいということで。よろしいでしょうか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 結論的には結構です。

ただ、去年もことしも消費税の減額程度がどのくらいかという質問をして、金額が南アルプス市や笛吹市は10億、多少下か。僕はそこを言いたかったんですよ。多少その余裕はあるじゃないですかというふうに質問しました。また、比べる同じ町の数とかいろいろありまして、それで単純には述べられないけれども。多少の余裕はないですかと、こういう意味だけで、ただそういうことですから結構です。

○委員長（小澤重則君） それでは、介護保険の負担軽減とサービス水準の維持についてお諮りいたします。

別紙要望書により、提出することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 異議なしと認めます。

よって、介護保険の負担軽減とサービス水準の維持について、別紙要望書のとおり提出することに決定いたしました。

なお、3つありますので、3つ可決された場合には、また再度検討いたします。

次に、斉藤委員より、将来のごみ処理事業に関する研究、検討費用の予算付けについて説明をお願いいたします。

斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） 具体的に箇条書きにしていらないんですけども、現状のままの広域のごみ処理は、一般質問その他で何度も話ししているとおり、今後最低でも10年、15年は手

つかずという状況の中で、なぜそういうような状況のままやってきたかについては、それ以上にいろいろあることは承知の上で、やっぱり今後の残りの時間を考えた場合に、市内にそういうことを具体的に検討していく検討委員会があるとは聞いているが、現実の問題だととして、先進地の視察とか研究、研修という部分で予算がとれていないという話を聞いています。

予算がとれていないから勉強ができないというのも、行政の言い方としては私ちょっと納得できないんだけど、我々も議員側としても一生懸命、いわゆる大したたくさんお金の無い中でも、こういうことは市が抱える大きな問題の一つとしてそういうふうに勉強していかなきゃいけないんじゃないか、提言していかなきゃいけないんじゃないかと言っているやさきに、行政の担当職員の中から予算がないから勉強もできないみたいな話が聞こえてくるというのは、非常に納得しがたいと。

迷惑施設を市長にお任せして、お金で処分しちゃえばいいと言う考え方はどこかに過去に一時あっただろうけれども、今後の問題としてはそういうことでは通っていかないんじゃないだろうか。新しい住民、その他いろいろな方が世代交代してかわってくる時期に、今までがこうだったから今後もこのままでいいとはちょっと考えにくいと。

そこへこの間も話が出ましたけれども、バイオマス産業都市構想が認定自治体になるならんはともかくとしても、CO₂の問題、その他、森林の環境の整備その他ということになってくるとこれ進めていかなければいけない、嫌でも進めていかなきゃならない事業の中に、市長答弁の中にごみとバイオマスは別問題という話が現に出ていましたので、その辺のこともかみ合わせた勉強をする必要があるというふうに私は感じています。

燃えるものでそれなりのエネルギーをどうやって活用していくかは、非常に住民感情とかいろいろなものもひっくるめた上で、慎重に検討していくべき方法を見つけていく。それには、やっぱり先進地の視察とか研修、研究というものがどうしても必要なのに、行政の中に予算がない、予算がないから勉強会も行けないという話は納得できないので、少なからず予算をつけてもらって、最大限の活動をできるような環境をつくってやってほしいというのが要望です。

○委員長（小澤重則君） 説明が終わりました。

この将来のごみ処理事業に関する研究、検討費用の予算づけについて質疑等ありましたらお願いします。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） この対応については、なかなか事業に対して将来に向けての調査研究

費はいろいろな事業だから余り盛っていないんだね、現実問題として。いろいろ考えると、要するに9年だ、大変という問題ではなくて、そういう点に関しても、将来的な視野に立って、行政自体がそういうことを考えてくれれば、この提言はいいことじゃないかなと。

要するに公助だけではなくて、やっぱり事業全体として見たときに、甲斐市の将来に向けて、それはあっちもこっちもじゃいかんよね。やっぱり甲斐市の主たるこの問題点に関して、やっぱりそういうビジョンを持って予算措置をしながら、やっぱりよりよいものを求めて調査研究をするということは、予算づけできるかできないかは別としても、提言としてはそういうことはやってやるべきだということだと思います。私はそう思います。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 予算がつかないと、やっぱり何となくずるずるいっちゃうという感じも、予算がつけばやっぱり目標を達成しながらやるので、そのほうがいいと思います。金額はともかく。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

五味委員。

○委員（五味武彦君） この要望はもちろん大事なテーマがあるんだけど、とりあえずその検討委員会などこの辺を立ち上げてくれと。将来的な事業はもちろんつくるんだろけれども、とりあえず来年度、再来年度の予算についてはこういうものを出してほしいということですよ。であれば、もう本当にいいことだと思うんです。

今、裏の表を見ている、やってみればリサイクル推進がどうのこうのとか、これはいわゆる今の枠の中でどうやって減らそうかというところなんです。もっと考え方を変換して、もっと一本化とかそういうところ辺でするのが普通じゃないかなと思うので、大賛成だと思います、私は。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

[発言する者なし]

○委員長（小澤重則君） なければ質疑を終了します。

それでは、将来のごみ処理事業に関する研究、検討費用の予算づけについてお諮りいたします。

別紙要望書どおり提出することにご異議ありませんか。

[「ちょっと待って」と呼ぶ者あり]

○委員（内藤久歳君） 結局これは3つ出ているわけだ。これは異議ありと言ってもこうやって決まっちゃったらもう出すものがないので、一通りやって、それで異議なしなら異議はないんだから、3つやって、その中でやってくださいというふうにこれからしないと。

〔「それは問題じゃない」と呼ぶ者あり〕

○委員（内藤久歳君） 質疑をして、その中で2つに絞り込む、中身をつくってもらおうと勘違いします。一応、だから説明を受けて質疑してその中で。

○委員長（小澤重則君） 採決をしないで。

○委員（内藤久歳君） しないでね。採決があると決まってくるから。

○委員長（小澤重則君） 採決しないで3つと、聞いた3つの中で2つに絞ると。

○委員（内藤久歳君） だから、今のを白紙撤回してもらって、今やったことは。それで説明をして、その場で質疑をして、委員長の采配で一つ一つについて決めていってもらえれば、そのほうがいいんじゃないですか。

○委員長（小澤重則君） わかりました。

○委員（内藤久歳君） 俺が最後にあるからね。

○委員長（小澤重則君） 先ほどの松井委員の件も同じでございます。異議なしと認めていただきましたら、それも撤回いたします。今の斉藤委員のやつも諮りませんので、最後までいってから2つに絞って諮るようにいたします。申しわけございませんでした。

次に、内藤委員より社会福祉協議会職員人件費補助金について説明をお願いします。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 私の場合は、社協に関して市のほうから委託事業が結構多くて、非常に今後、また貧困問題に関する部分での事業の比較というようなことも含めて、非常に社会福祉協議会の事業も拡大しているし、問題はそこにいる職員の固定化ということを考えてときに、非常に不安定だというようなこと。

それはなぜかという、要は臨時的にいながらほかの、ここに来る職員の皆さんはほかのところにチャンスを狙っている、固定化的な待遇、そういうものを持っていないので、みんなせつかく使えるようになったときに、ほかのところへ行っているとそっちの方向性がこっちに行っちゃうということで、慢性的にその事業をやっていく上で非常に大変だというふうなこともあって、そういうことを含めて、金を出せばいいという問題じゃないとは思いますが、そういった側面的なケアもしてあげないと、当然福祉の関係とかいろいろな議論に関しても、社協が担うところは大きい部分はあると思うんですね。

もっと言えば、今、事業の指定管理者制度ということも一つ外部委託というような格好で、行政も進んでいる状況の中で、そういう部分も考えるとそういった組織団体が安定的に運営していくためには、そもそもの人材を確保していく必要があるだろうと。それを考えたときに、現状では、聞いてみると非常に厳しい状況だというふうなことをちょっと耳にしているので、そういう点も踏まえて、人件費の増額をしながらそういう安定的に人材が確保できる環境づくりをしてやれば、将来的にそういう市から委託する事業に関しても、円滑に運用ができるんじゃないかなと。

要は、どこでも人材は力なりということもあるので、関与するためにはそういった人材の確保というような重要な問題がございます。そんなことをちょっと感じましたので、ここで提言をしていきたいなというふうに思います。

○委員長（小澤重則君） ありがとうございます。

説明が終わりました。

この社会福祉協議会職員人件費補助金について、質疑等がありましたらお願いします。

五味委員。

○委員（五味武彦君） 前に私も社協の幹事か何かやっていたんですけども、4年間ぐらいやったんですけども、そのときにちらちらと聞いたのが人件費なんですよ。はっきり言って、市の職員さんと社協職員さん1割から2割違うんですよ。具体的な金額は言えません。だけれども、明らかに少ないということはわかる。なおかつ、係長クラスのここのところ何年かの中に、みんな自分で別の職へ行ったりとか、要するに離れちゃうわけですよ。その具体部分でやっぱりこの人件費ももちろんそうなんですけど、そのほかの待遇面も1回比較して、じゃ甲斐市の職員がどうなのか、じゃ社協の職員の給料はどうなのか、ほかの福利厚生はどうなのかとか1回調べる必要もあるし。

それからもう1つ。この間も一般質問でやったんですけども、介護ボランティア。あれも、やっぱり保育園のほうに行ったときには、何しろそういう事業をどんと任せるのではなくて、市の職員と社協が一緒になってやっぱりやるべき問題でしょうと。ただ、任せるものは任せられるけれども、ある程度の事業については全てかかわっていくような体制が必要じゃないかと。これが協力体制じゃないかなということは言いました。

だから、やっぱりこういったものは考えてあげないと、福祉の問題ですから、みんなもう言ってみれば好きでなきゃできないという人だっているわけですよ。それに報いる部分が考えてあげる必要がこれは必須な問題ではないかなというふうに私は思います。

この間、何か5カ年計画ですか、社協の説明がありました。あれは、指標であってあのときも説明したんですが、人件費がどうなっているのと言ったときがあったんですけども、ちょっとその辺ざっと終わっちゃった部分があるし。

もう1つは、またちょっと話飛ぶんですけども、河口湖かどこかは社協の会長を町長か誰かがやっているんだよね、違ったっけ。それはわからないか。民間使うのかちょっとわからないけれども、結構行政とコンタクトにやっているということもありますし、1回やっぱりこれ調べて、それから向上するような方向をとる提言としてはいいことだと私は思います。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 給与が安いということは聞いているし、それなりの資格も持っていると思いますし、ただ、昇任昇格なのかがどうなっているのか、そういう規格もよくわからない。やっぱり、全体職員と比較してもここくらいはいいとはならんとあるけれども、我々も持っていないといけないなというのは感じていますけれども。基本的にはやっぱりいいと思います。

○委員長（小澤重則君） ありがとうございます。

今のご意見、お二人のを伺いますと提言には賛成だ。ただ、厚生環境常任委員会でも担当でございますので、その辺を調べて委員会の中でもむことも考えていかなきゃならないと思いますので、またそれは検討していきたいと思います。

この提言については賛成ということですね。

〔「委員長、いいですか」と呼ぶ者あり〕

○委員（五味武彦君） 予算的な問題というのはなかなか、まだ1年2年だけでできる問題じゃないけれども、まずは調査研究という部分がやっぱり必要になってくるのかな。現実に向けての調査です。

○委員長（小澤重則君） わかりました。

ほかにございますか。

〔「委員長」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 金丸委員。

○委員（金丸幸司君） 先ほど内藤議員が言った人材の確保という問題になってくる。国でも認知症とかやっぱりそういう専門は社協に頼らざるを得ないという状況が、やっぱり今後考えられるというふうにも言われています。

それと、さっき言った財源がどこまでという部分もあわせたほうが、これは五味委員が言ったように、介護ボランティアのほうも一緒に、病院のほうもそういう方々もふやしていかないと、社協ばかりしんどくなって、やっぱりそういったボランティアの方々の報酬も一緒になって考えていただきたいなというのが1つ。これ自体には私は賛成です。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

五味委員。

○委員（五味武彦君） 助成事業ですから予算取りですから、そういう検討をするのが予算につくのかどうか私はわかりませんが、あくまで当初は予算をふやせと、補助金を出せということだと思います。

○委員長（小澤重則君） 予算への要望ですか。

○委員（五味武彦君） 要望ということで、そういうことです。

○委員長（小澤重則君） それでは、意見も出たようでございますので、今の3つの要望に対して2つに絞り込む作業に入りたいと思います。

どういたしましょう。賛成の者に挙手していただけますでしょうか。3つの中から2つ。

○委員（齊藤芳夫君） 意見いいですか。

○委員長（小澤重則君） 齊藤委員。

○委員（齊藤芳夫君） 委員長、今の介護保険負担軽減サービス、これ意味は非常によくわかるんだけど、認定抑制がないよう、また、要支援のサービス低下がないように行政側に事業の努力をしてもらいたい。最低でも現状を維持してもらいたいというのが、具体的に例えば、事業予算という部分にどういう項目でどういうふうにお金をつけるということを言っているのがちょっと具体的に見えない。

確かに、総枠たくさんあればなんでもできるということは事実。だけれども、その総額が限られている中で、じゃどこを節約してどれに向けてということも考えなければいけないという話の中で、今、役所に事業そのものにサービス低下がないように事業を求めるといふうに努力してほしいということは、予算というふうにするという場合にどういうふうを考えればいいのかねというのをちょっと。

前回まで幾らついてたから、これではやっぱりどこにどういうふうにあって、こういうふうだったんで、だからこの部分についてここを厚めにして、どこかを節約してとかというそういう具体的なことを考えなきゃいけない。あるいはそういうことを考えてほしいというふうに要望出すのであれば、ある程度の意味はわかるんだけど、やっぱりこれ、28年

度の当初予算に具体的に何をしてほしいかという部分でちょっとインパクトが弱いという感じがするんだよね。

○委員長（小澤重則君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） 少し実態を調査した上で、こういった点が落ちてきたんじゃないとかそういうところまで研究は必要だね。ただ、この間市長の質問の中で、北杜市で現にそうやって切り出しがやられていると、これ本当は予算絡みですよ。そういうこともあるのかなと、うちではそんなことはしていないだろうと言ってくれたという程度の私の質問だった。

○委員長（小澤重則君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今、向こうで感じていることだけれども、やっぱり決算を踏まえた中でどうしたいか、どういうところがちょっと弱いと、持ち帰って予算をつけて、要するに低下をしないのか、もっとよくなるのかというところに具体的にやっぱりやらないと、何か受けたところでも低下しないように目指すんだけど、どこをどういうふうに低下しないようにするんだという部分が見えてこない、訴える部分としてはちょっと弱いかな。

○委員長（小澤重則君） 斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） 今の話だと予算だけじゃないという感じもするわけね。例えば、担当部署の人材。人事異動に絡んで例えばの話、能力のある人がよその部署にいたら異動させるだとか、そういうことだって一つの方法なわけであって、予算そのものというふうな部分とは現実的な内容がこれちょっと違うという感じがする。

○委員長（小澤重則君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） 予算という意味でいくと（２）にある町の独自性を発揮していただきたいということで、介護保険をふやしてほしいという意味合いになってくるんですかね。

○委員長（小澤重則君） 斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） 松井委員のやつは、あくまで一般質問とかそれから常任委員会でその辺でも追求していくということでもいいんじゃないですか。私は２番と３番、もし２本とするのであれば、２番目、３番目という形でまとめていただければありがたいなということです。以上です。

○委員長（小澤重則君） 松井委員、どうでしょうか。

○委員（松井 豊君） じゃ、いいですよ。もう少し検討して。

○委員長（小澤重則君） よろしいですか。

○委員（松井 豊君） はい。

○委員長（小澤重則君） それでは、一応お諮りいたします。戻ります。

では、松井委員からのは取り下げていただけるということで、また検討して出すということとでございますので、2つの要望に絞ります。

斉藤委員より出されております将来のごみ処理事業に関する研究、検討費用の予算づけについてをお諮りいたします。別紙要望書により提出することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 異議なしと認めます。

よって、将来のごみ処理事業に関する研究、検討費用の予算づけについては、別紙要望書のとおり提出することに決定いたしました。

続きまして、内藤委員から出されております社会福祉協議会職員人件費補助金についてお諮りいたします。別紙要望書により提出することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 異議なしと認めます。

よって、社会福祉協議会職員人件費補助金については、別紙要望書のとおり提出することに決定いたしました。

次に、次第4、その他に移ります。

委員の皆様から何かありましたらお願いします。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 今の最後の社協の件ですが、社協の給与改定を僕らがやるというのは、社協から給与表みたいなものはあったんですよね。そういうのも参考に出してもらったりして、ここでこうするかそういった説明がないと全然、役場としても僕もそういうふうやってきたんで大体わかりますし。社協のは全くわからない。そういう資料は提供はしてもらいたいと思います。厚生常任委員会がその辺を調べるようなことがあるということをもた出しておきますので、またお願いします。

○委員長（小澤重則君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） なければ、次に事務局からあります。

石原書記。

○書記（石原大助君） 今後の予定ですけれども、10月15日の木曜日、午前11時からの市民と議会の対話集会の吉沢地区のリハーサルを行いますので、敷島地区、双葉地区の議員さん

の出席をお願いします。10月15日木曜日、午前11時です。

あと、その日に午後1時30分から、今まとめていただいた要望書にして決算審査特別委員会を開催します。午後1時30分です。

決算審査特別委員会終了後に全員協議会を開催します。内容につきましては、第2次統合計画と総合戦略についてということで開催いたします。

全員協議会終了後、議会運営委員会を開催します。内容につきましては、第4回定例会とあと臨時会の日程についてということで、いずれも10月15日の木曜日、一日になりますけれども、よろしく願いいたします。あとは……

〔「15日は午前11時ですか」と呼ぶ者あり〕

○書記（石原大助君） 11時に市民と議会の対話集会リハーサルです。それで、1時30分に決算審査特別委員会です。決算審査特別委員会終了後に全員協議会、全員協議会終了後に議会運営委員会。

○委員長（小澤重則君） 松井さん、招集通知が全部入っている。

○委員（松井 豊君） 全協だけないな。全協もあるよな。

○書記（石原大助君） あと、次回の厚生環境常任委員会の予定ですけども、11月4日水曜日、午前10時から厚生環境常任委員会を開催します。午後1時30分から意見交換会ということで、主任児童委員さんと意見交換会を行います。午後1時30分。

〔「これは10時」と呼ぶ者あり〕

○書記（石原大助君） 10時に厚生環境常任委員会を開催して、午後1時30分に意見交換会。いずれも一日になりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

〔「委員長、ちょっと質問いいですか」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 五味委員。

○委員（五味武彦君） 今、石原さんから話があったんですけども、さっき言った去年出した予算要望書に係る検証とか、この辺の項目はこのときに入るのかね、決算のときに。去年こういうものを出したけれども、これがよかったとかそういう統括はやってもらえるということですか。

○委員長（小澤重則君） 決算審査特別委員会の意見として、言っていたければ結構です。それとも、厚生環境常任委員会から要望しますか。

○委員（内藤久歳君） それならあれじゃない。それはこの決算審査特別委員会の中で意見と

して言って、そのことを今後どうしていくかということは全協の中で決めればいい。

○委員（小澤重則君） 決算審査特別委員会の中で意見を出していただいて、これから決め方なんかを検討していくよう、意見として言っていただければいいです。

○委員（五味武彦君） ちょっといまいちわからないんだけども。

まず、去年がどうだったのかそれを調べた上で、ことしはこういう予算要望を出しますよというのが順序かなと思うんですが、どうなんですかね。

○委員長（小澤重則君） それは先ほど言ったように、それを言い出すとまた元に戻っちゃいますから、全体の会議の中でそういう要望をしていただいて、次からはこういうことにしていただきたいとか。

石原書記。

○書記（石原大助君） あくまで、決算を受けて28年度に要望するじゃないですか。そうすると、28年の予算で3月に出てくるじゃないですか。そのときに、予算審査特別委員会というのがあって、やっぱりそこですべきなのかなと思うんですけども、組織が全く違うので、本当は決算のほうで受けて、決算でどうかというのを審議すればいいんですけども、今回は要望でもうここで終わってしまうということで、予算審査特別委員会の中で決算の委員会が出したものであるけれども、予算審査特別委員会の中で要望は出したけれども、どうなっているという検証が、そっちのほうで必要かと思います。

後で検証しても予算をもうとってしまうので、予算審査特別委員会の中で今回こういう要望したけれども、通っていなければ議会としてこういう要望を出しているけれども、どうなっているんだというところがそこで確かめるのがいいのではないかと。

昨年度の検証項ということも、厚生環境常任委員会の意見が出ますので、委員長報告の中で今回その2件が要望となっていますということと、あと、この検証については継続していくのか、新規のやつをやるのかということは、委員長報告の中で委員長からしていただくということで。

〔「わかりました」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小澤重則君） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、厚生環境常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午前10時43分